

安全運転教育コース例示

(新入社員半日3時間コース案)

	教育科目	教育事項	教育内容	教材等	時間
適性検査・技能診断	理論A 運転適性検査 運転技能診断	①運転適性検査の実施と結果に基づく指導 ②運転技能診断の結果に基づく個別指導	・運転適性検査を実施し、検査結果に基づく指導を行う。 ・実車走行等によるドライバーの個癖の運転特性を診断し、診断結果に基づく個別指導を行う。	適性検査 ・実車走行 ・運転適性検査器材等 ＜適性検査＞ ＜実技診断＞	60 (分)
実技	基本A 日常点検 基本B 運転姿勢 基本C 視角と死角	①運行前の車両の点検 ②運転の基本となる運転姿勢 ③死角に入った歩行者と二輪車の発見方法 ④歩行者と自転車・二輪車が死角に入った状況の確認	・安全運転の基本となる車両点検方法及び正しい運転姿勢を指導する ・死角の存在を意識して、積極的に観る行動を指導する。 ・教本等示しながら、死角による事故状況の原因と回避等正しい情報適切に判断し、操作することを指導する。	・実車等 ・教本 ＜実技場内＞ ＜実技路上＞	60 (分)
実技	基本D 基本走行	①基本走行による個癖補習	・コース又は路上で基本となる安全運転方法について指導する。	・実車等 ＜実技場内＞ ＜実技路上＞	30 (分)
座学	理論C 運転者の心構えと安全運転義務	①運転者に課せられた責任と義務の重要性 ②交通事故を起こさない、交通違反を犯さない運転者の自覚の養成	・企業ドライバーとして交通ルールを遵守し、常に細心の注意を払い他人に危害を与えないような安全な速度と方法で運転すべき義務がある事を理解させる。 ・シートベルト着用義務と着用効果、必要性を理解させる。	・教本 ・ビデオ等 ＜教室＞	30 (分)
＜合計時間＞					180 (分) 3時間

- * 教育時間は、各企業との相談に応じたカリキュラム作成により、教育内容を考慮の上調整下さい。
- * 場内コースを使用しない場合は、路上教育において、駐車場、空き地等を利用するなど工夫して行う。

安全運転教育コース例示

(新入社員 1日6時間コース案)

	教育科目	教育事項	教育内容	教材等	時間
適性検査・技能診断	理論A 運転適性検査 運転技能診断	①運転適性検査の実施と結果に基づく指導 ②運転技能診断の結果に基づく個別指導	・運転適性検査を実施し、検査結果に基づく指導を行う。 ・実車走行等によるドライバーの個癖の運転特性を診断し、診断結果に伴う個別指導を行う。	適性検査 ・実車走行 ・運転適性検査器材等 ＜適性検査＞ ＜実技診断＞	60 (分)
実技	基本A 日常点検 基本B 運転姿勢 基本C 視角と死角	①運行前の車両の点検 ②運転の基本となる運転姿勢 ③死角に入った歩行者と二輪車の発見方法 ④歩行者と自転車・二輪車が死角に入った状況の確認	・安全運転の基本となる車両点検方法及び正しい運転姿勢を指導する。 ・死角の存在を意識して、積極的に観る行動を指導する。 ・教本等示しながら、死角による事故状況の原因と回避等正しい情報適切に判断し、操作することを指導する。	・実車等 ・教本 ＜実技場内＞ ＜実技路上＞	60 (分)
実技	基本D 基本走行	①基本走行による個癖補習	・コースや路上で基本となる安全運転方法について指導する。	・実車等 ＜実技場内＞ ＜実技路上＞	30 (分)
実技	基本E 狭路の通行	①内輪差と車両感覚の体験 ②道幅にあった速度の調整方法	・コースにおいて、S字及びクランクで速度調整を指導する。 ・路上で、対向車、自転車、歩行者、駐停車における運転方法と危険回避方法を指導する。	＜実技場内＞ ＜実技路上＞	30 (分)
実技	基本F コーナリング特性	①コーナーの曲がり角、又は道幅による車両の限界と安全速度	・車両特性に応じた走行位置の判断と、適時な速度による円滑な通行方法を指導する。	＜実技場内＞ ＜実技路上＞	30 (分)
実技・座学	応用B 危険予測と回避 理論E // のディスカッション 応用F 通行位置の選択と進路変更 理論E // のディスカッション	①危険予測の重要性を理解し、その具体的な運転方法 ②道路状況に応じた、より安全な通行位置と正しい進路変更	・市街路で危険予測と回避 ・潜在的危険を予測した通行位置の選択と進路変更を指導する。 ・コメントリードライビング及びディスカッションにおいて理解させる。	＜実技路上＞ ＜教室＞	120 (分)
座学	理論C 運転者の心構えと安全運転義務	①運転者に課せられた責任と義務の重要性 ②交通事故を起こさない、交通違反を犯さない運転者の自覚の養成	・企業ドライバーとして交通ルールを遵守し、常に細心の注意を払い他人に危害を与えないような安全な速度と方法で運転すべき義務がある事を理解させる。 ・シートベルト着用義務と着用効果、必要性を理解させる。	・教本 ・ビデオ等 ＜教室＞	30 (分)
				＜合計時間＞	360 (分) 6時間

安全運転教育コース例示

(ミドルドライバー半日3時間コース案)

	教育科目	教育事項	教育内容	教材等	時間
技能診断	運転技能診断	①運転技能診断の結果に基づく個別指導	・実車走行等によるドライバーの個癖の運転特性を診断し、診断結果に伴う個別指導を行う。	・実車走行 ・運転適性検査器材等 <実技診断>	30 (分)
実技	基本A 日常点検 基本B 運転姿勢 基本D 基本走行	①運行前の車両の点検 ②運転の基本となる運転姿勢と基本走行による個癖補習	・コースや路上で基本となる安全運転方法について指導する。	・実車等 <実技場内> <実技路上>	60 (分)
実技	応用A 緊急時の車の止め方「急ブレーキ」	①運転姿勢とブレーキングの影響を理解し、最短距離で止まる感覚の習得	・速い速度からの急ブレーキによる停止距離と危険回避を学習する。 ・ABSブレーキ操作を学び、通常ブレーキ操作との違いを指導する。	 <実技場内>	30 (分)
実技・座学	応用B 危険予測と回避 理論E // の ディスカッション	①危険予測の重要性を理解し、その具体的な運転方法	・市街路で危険予測と回避方法を指導する。 ・コメンタリードライビングとディスカッションで、危険予測と回避方法を理解させる。	 <実技路上> <教室>	60 (分)
<合計時間>					180 (分) 3時間

安全運転教育コース例示

(ミドルドライバー1日6時間コース案)

	教育科目	教育事項	教育内容	教材等	時間
適性検査・技能診断	理論A 運転適性検査 運転技能診断	①運転適性検査の実施と結果に基づく指導 ②運転技能診断の結果に基づく個別指導	・運転適性検査を実施し、検査結果に基づく指導を行う。 ・実車走行等によるドライバーの個癖の運転特性を診断し、診断結果に伴う個別指導を行う。	適性検査 ・実車走行 ・運転適性検査器材等 ＜適性検査＞ ＜実技診断＞	60 (分)
実技	基本A 日常点検 基本B 運転姿勢 基本C 視角と死角	①運行前の車両の点検 ②運転の基本となる運転姿勢 ③死角に入った歩行者と二輪車の発見方法 ④歩行者と自転車・二輪車が死角に入った状況の確認	・安全運転の基本となる車両点検方法及び正しい運転姿勢を指導する。 ・死角の存在を意識して、積極的に観る行動を指導する。 ・教本等示しながら、死角による事故状況の原因と回避等正しい情報適切に判断し、操作することを指導する。	・実車等 ・教本 ＜実技場内＞ ＜実技路上＞	60 (分)
実技	基本D 基本走行	①基本走行による個癖補習	・コースと路上で基本となる安全運転方法について指導する。	・実車等 ＜実技場内＞ ＜実技路上＞	30 (分)
実技	基本E 狭路の通行	①内輪差と車両感覚の体験 ②道幅にあった速度の調整方法	・コースで、S字とクランクで速度調整を指導する。 ・路上で、対向車、自転車、歩行者、駐停車における運転方法と危険回避方法を指導する。	＜実技場内＞ ＜実技路上＞	30 (分)
実技	応用A 緊急時の車の止め方 「急ブレーキ」	①運転姿勢とブレーキングの影響を理解し、最短距離で止まる感覚の習得	・速い速度からの急ブレーキによる停止距離と危険回避を学習する。 ・ABSブレーキ操作を学び、通常ブレーキ操作との違いを指導する。	＜実技場内＞	30 (分)
実技・座学	応用B 危険予測と回避 理論E // のディスカッション 応用F 通行位置の選択と進路変更 理論E // のディスカッション	①危険予測の重要性を理解し、その具体的な運転方法 ②道路状況に応じた、より安全な通行位置と正しい進路変更	・市街路で危険予測と回避 ・潜在的危険を予測した通行位置の選択と進路変更を指導する。 ・コメンタリードライビングとディスカッションで理解させる。	＜実技路上＞ ＜教室＞	90 (分)
座学	理論B 応急救護措置	①交通事故の悲惨さと正しい応急救護措置方法	・交通事故に遭遇した際に協力する人命救助知識を理解させる。 ・心肺蘇生法・止血法などの救命手当を理解させる。	＜教室＞	30 (分)
座学	理論D 言葉使いとマナー	①交通社会人としてのマナー教育	・正しい言葉遣い、挨拶、返事等を理解させる。 ・運転者としての交通ルール・マナーを理解させる。	＜教室＞	30 (分)
＜合計時間＞					360 (分) 6時間

安全運転教育コース例示

(交通事故・違反多発者一日6時間コース案)

	教育科目	教育事項	教育内容	教材等	時間
適性検査・技能診断	理論A 運転適性検査 運転技能診断	①運転適性検査の実施と結果に基づく指導 ②運転技能診断の結果に基づく個別指導	・運転適性検査を実施し、検査結果に基づく指導を行う。 ・実車走行等によるドライバーの個癖の運転特性を診断し、診断結果に伴う個別指導を行う。	適性検査 ・実車走行 ・運転適性検査器材等 ＜適性検査＞ ＜実技診断＞	60 (分)
実技	基本A 日常点検 基本B 運転姿勢 基本D 基本走行	①運行前の車両の点検 ②運転基本となる運転姿勢・基本走行など個癖補習	・コースと路上で基本となる安全運転方法について指導する。	・実車等 ＜実技場内＞ ＜実技路上＞	60 (分)
実技	基本C 視角と死角	①死角に入った歩行者と二輪車の発見方法 ②歩行者と自転車・二輪車が死角に入った状況の確認	・死角の存在を意識して、積極的に観る行動を指導する。 ・教本等示しながら、死角による事故状況の原因と回避等正しい情報適切に判断し、操作することを指導する。	・教本 ＜実技場内＞ ＜実技路上＞	30 (分)
実技	応用A 緊急時の車の止め方 「急ブレーキ」	①運転姿勢とブレーキングの影響を理解し、最短距離で止まる感覚の習得	・急ブレーキによる停止距離と危険回避を学習する。 ・ABSブレーキ操作を学び通常ブレーキ操作との違いを指導する。	＜実技場内＞	30 (分)
実技	応用G 駐車措置	①安全で円滑な交通を実現する正しい駐車措置の習得	・違法駐車が及ぼす社会問題を指導する。 ・市街路における正しい駐停車と発進の仕方を学習する。	＜実技路上＞	30 (分)
実技・座学	応用B 危険予測と回避 理論E // のディスカッション 応用F 通行位置の選択と進路変更 理論E // のディスカッション	①危険予測の重要性を理解し、その具体的な運転方法 ②道路状況に応じた、より安全な通行位置と正しい進路変更	・市街路で危険予測と回避方法を指導する。 ・潜在的危険を予測した通行位置の選択と進路変更を指導する。 ・コメンタリードライビングとディスカッションで理解させる	＜実技路上＞ ＜教室＞	90 (分)
座学	理論B 応急救護措置	①交通事故の悲惨さと正しい応急救護措置方法	・交通事故に遭遇した際に協力する人命救助知識を理解させる。 ・心肺蘇生法・止血法などの救命手当を理解させる。	＜教室＞	30 (分)
座学	理論C 運転者の心構えと安全運転義務	①運転者に課せられた責任と義務の重要性 ②交通事故を起こさない、交通違反を犯さない運転者の自覚の養成	・企業ドライバーとして交通ルールを遵守し、常に細心の注意を払って他人に危害を与えないような安全な速度と方法で運転すべき義務がある事を理解させる。 ・シートベルト着用義務及び着用効果、必要性を理解させる。	・教本 ・ビデオ等 ＜教室＞	30 (分)
				＜合計時間＞	360 (分) 6時間

安全運転教育コース例示

(職員一日6時間コース案)

教育科目	教育事項	教育内容	教材等	時間
道路交通の現状と交通事故の実態 (事故発生概要と分析)	①地域における交通社会の現状 ②企業ドライバーの事故の特徴	県下の交通情勢、交通事故の発生状況等から、最近の交通事故実態を説明 企業ドライバーの交通事故の実態とその特徴点並びに事故事例等の説明	交通事故統計資料等	10 (分)
運転適性についての診断と指導 (適性検査の診断と指導) (運転技能診断と指導)	①運転適性検査の実施と結果に基づく指導 ②運転技能診断の実施と結果に基づく個別指導	<ul style="list-style-type: none"> ・運転適性検査を実施し、検査結果に基づく指導を行う。 ・実車走行等により当該ドライバーの個癖等の特性を診断し、当該診断結果に伴う個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実車 ・運転適性検査器材等 ＜適性検査＞ ＜実技診断＞ 	60 (分)
運転者の心構えと安全運転の義務 (応急救護措置) (危険予知と防衛運転)	①安全運転の心構え ②シートベルト等の着用義務並びに携帯電話等の使用制限の義務 ③交通事故を起こしたドライバーの責任 ④負傷者の救護義務等	<ul style="list-style-type: none"> ・特に企業ドライバーには、交通ルールを遵守し、常に細心の注意を払い、他人に危害を与えないような安全な速度と方法で運転すべき義務がある事を指導する。 ・企業ドライバーといえどもシートベルト等の着用義務があることを説明するとともに、着用の効果、必要性を説き、着用の習慣化等について指導する。 ・交通事故を起こした場合の刑事上、民事上、行政上の責任について事例等を踏まえて説明する。 ・交通事故を起こした場合における警察官への報告義務、並びに負傷者の救護(応急救護処置を含む。)について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教本 ・その他 ＜座学＞	50 (分)
安全運転に必要な自動車の運転技能及び知識 (日常点検 車両点検) (基本走行 運転姿勢) (危険予測) (路上走行)	①危険予測と危険予測のディスカッション ②前方不確認等による危険体験 ③市街地等における安全な運転方法	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地における路上走行を踏まえ危険予測の方法を習得させるとともに、当該体験を踏まえたディスカッションを行う。 ・目隠し等による前方不注視の状態又はその他の危険な状態を強制的に作りだし、その危険性を体感させる。 ・市街地等における安全な運転の方法について指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実車等 ＜実技場内＞ ＜実技路上＞ ＜合計時間＞	120 (分)